

平成 1 9 年度

第 3 回

(集団研修)

共生による森林保全コース

実施要領

平成 1 9 年 8 月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

目 次

1. コース基本情報	1
2. コース目的	1
3. 到達目標	1
4. 研修プログラム	2
5. 研修員参加資格要件	3
6. 研修実施体制及び運営	3
7. 研修の評価	4
8. 研修付帯プログラム	5
9. 研修・宿泊場所	5
10. その他	6

付 属 資 料

- 付表ー 1 研修員の業務関連情報
- 付表ー 2 研修カリキュラム
- 付表ー 3 平成 19 年度日程表（案）
- 付表ー 4 年度別受入実績表

1. コース基本情報

(1) コース名

和文：(集団) 共生による森林保全コース

英文：Forest Management Through Coexistence

(2) 受入期間

平成 19 年 8 月 26 日（日）～平成 19 年 11 月 16 日（金）

(3) 技術研修期間

平成 19 年 9 月 3 日（月）～平成 19 年 11 月 15 日（木）

(4) 定員、割当国

定 員：12 名 受 入：11 名（アフガニスタン来日中止による）

割当国：14 ヶ国（下線は受入国）

アルゼンチン、ブラジル、カンボジア、中華人民共和国、
フィジー、グアテマラ、キルギス共和国、レソト、ミャンマー、ニジェール、
ベトナム、ラオス、ブルキナファソ、アフガニスタン

2. コース目的

本コースは、わが国の森林の歴史と役割、森林行政、住民の参加などによる森林の保全・造成への取組みの重要性、森林施業技術、森林造成技術について森林保全と人間活動が効果的に共生し成果を生み出す知識・技術習得の研修を行い、各々国での現存する森林の保全、人間と森林の共生、育成、森林造成促進の中核となる人材を育成することを目的とする。

3. 到達目標

- (1) 森林保全と人間活動が効果的に共生し成果を生み出す手法を理解する。
- (2) 森林資源の把握手法と森林の効用を理解する。
- (3) 森林の生物多様性保全上の役割を理解する。

4. 研修プログラム

(1) 研修内容

来日後一週間のオリエンテーションの後、帰国までの期間、研修を実施する。主に講義、実習、視察、討論から構成される。

ア. 研修カリキュラム（付表-2 参照）

イ. ジョブレポート発表会（Job Report Presentation）

(7) 目的

- a. 研修員自身が問題点を再認識する
- b. 研修員相互間で問題意識を共有する
- c. 講師が研修員の業務内容、研修で習得したい技術・知識を理解する

これらの発表を通じ、講師より個々の研修員の期待に対してこの研修でできないことを明確に示す意見交換の場とする。

(4) 発表内容

J/R 発表会において、各研修員は以下の3点について主に発表する

- a. 自国でどのような仕事に従事しているのか
- b. その仕事において現在どのような問題を抱えているか
- c. この研修の中で習得したい技術、知識

ウ. アクションプラン発表会（Action Plan Presentation）

(7) 目的

- a. 研修員が帰国後に取り組むべき課題を明確にする
- b. 可能な計画の立案能力向上
- c. 研修結果の資料として利用する

(4) 発表内容

J/R で提言した問題点、また、研修中に新たに想定された問題点の解決のためのプロジェクトの計画を策定し、その目標達成のための活動計画（アクションプラン）を発表する。（A/P の必要記載事項として、プロジェクトタイトル、解決すべき問題とそれに対するプロジェクト目標、期間、場所、事業主体、活動内容など、についての記述を求める）

(2) 使用言語 英語

5. 研修員参加資格要件

当該コースに関わる General Information 記載条件

- (1) 森林科学の一般的知識、関連する自然科学及び社会科学の基礎的知識を有し、森林行政や森林経営について５年以上の実務経験があること
- (2) 大学卒業または同等の学力を有する者
- (3) 年齢４０歳以下の者
- (4) 本コースではフィールドワークが多いことから女性に関しては妊娠していない者

各コース資格要件

- (1) 所定の手続により割当国政府から推薦されていること
- (2) 十分な英語能力を有すること
- (3) 心身共に健康なこと
- (4) 軍隊に服役していないこと

6. 研修実施体制及び運営

本研修コースは、コースリーダーの助言のもと、独立行政法人国際協力機構帯広国際センター（以下、JICA 帯広）が計画する研修コースの実施に関する業務を、社団法人海外林業コンサルタンツ協会（以下、JOECA）に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営するものとし、具体的業務分担は次のとおりとする。

(1) JICA 帯広

- ア. 研修実施計画書作成（コース目的、到達目標、研修期間など）
- イ. 研修の評価
- ウ. 研修実施予算の執行管理
- エ. 募集要項（G. I.）及び研修実施要領等の作成
- オ. その他

(2) JOECA

- ア. 研修日程表の調整・作成
- イ. 講師、見学先等への連絡・確認
- ウ. テキスト、資料等の手配
- エ. その他

(3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる技術的助言等

(4) 研修監理員 (Coordinator : CDN)

技術研修期間中、(財)日本国際協力センター (JICE) 所属の研修監理員 (CDN) を配置し、コース実施・運営の円滑・調整を図る。

ア. 研修に係る関係者間の連絡調整

イ. 通訳業務

ウ. その他

7. 研修の評価

(1) 評価の目的

研修コースの到達目標 (1 頁参照) に基づき、研修成果の測定、分析を通じてコース終了時に、当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本コースの研修内容の質的改善を図るものとする。

(2) 評価の方法

ア. コースリーダー等による個々の研修員の到達目標の達成度把握

イ. 個々の研修員による評価 (Questionnaire)

ウ. JICA による評価

(3) 評価会

研修終了時に研修員が提出する Questionnaire (JICA 所定の様式による質問書) の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 改善検討会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA、コースリーダー、JOFCA が参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度のコース改善に向けて対応方針を検討する。

8. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

研修員来日直後に、JICA 帯広において実施する。ブリーフィングでは、JICA の業務概要説明及びコース概要、研修員登録、パスポートビザの有効期間確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

(2) ジェネラルオリエンテーション

JICA 帯広にて実施し、日本の社会と日本人、歴史・文化、経済、教育、政治・行政などの日本事情の紹介を目的とする。

(3) 日本語講習

研修員は、研修のみならず国際交流事業に役立てるよう、簡単なあいさつ程度の語学力修得を目的として 10 時間の日本語講習を実施する。

ブリーフィング・ジェネラルオリエンテーション・日本語講習日程

日 程	内 容
8 月 27 日（月）	ブリーフィング
8 月 28 日（火） 午前	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の社会と日本人」
8 月 29 日（水） 午前 午後	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の経済」「日本の教育」 講義「日本の政治、行政」「日本の歴史・文化」
8 月 30 日（木）	日本語講習
8 月 31 日（金）	日本語講習

9. 研修・宿泊場所

独立行政法人国際協力機構帯広国際センター（JICA 帯広）

所在地：〒080-2470 北海道帯広市西 20 条南 6 丁目 1 番地 2
Tel (0155) 35-2001 Fax (0155) 35-2213

10. その他

(1) 修了証書

この研修を修了した研修員に JICA から修了証書 (Certificate) を授与する。

(2) 研修員の待遇

ア. 入国資格

日本で技術研修を受けるために来日する者は研修ビザを取得し、日本滞在中は日本国法規の適用を受ける。

イ. 滞在費

JICA の規程に基づき、本コースの研修を受けるために必要な手当が支給される。

(3) 開発教育支援

「開発教育」とは、開発途上国の文化、社会、人々の暮らし日本との関係などを知ることによって開発途上国に関心を持ち、「貧困問題」や「環境問題」など地球全体の構造的な問題を自分の問題としてとらえ、解決のために自ら行動することが必要であるという認識を広めることを目的として小・中学校の教育現場で実施されている。JICA はこの「開発教育」の支援に力を入れており、本研修コースの中に、地域の小・中学校や地域住民との相互理解のためのプログラムが含まれている。



独立行政法人国際協力機構 帯広国際センター
〒080-2470 帯広市西20条南6丁目1番地2
TEL : 0155-35-1210 FAX : 0155-35-1250
URL : <http://www.jica.go.jp/worldmap/hokkaidou.html#obihiro>

平成19年度「共生による森林保全」コース カリキュラム

単位: 日

到達目標	項目	科 目	講義	実習	視察	討論	担当講師・機関	講義・視察・実習等の目的	講義・視察・実習等の内容	
(1)森林保全と人間活動が効果的に共生し成果を生み出す手法を理解する。	日本の森林・林業の概要	日本の森林・林業	1.0				JOFGA 出口智行	日本の森林・林業の概要を理解する	日本の森林の特徴と分布、林業の歴史・現状、主要樹種等（JOFGA作成のパンフ Forestry in Japan使用）	
		日本の造林・治山事業	1.0				JOFGA 出口智行	日本の造林・治山事業について理解する	日本の造林・治山事業の仕組みと実際	
		北海道十勝農林部森林管理署長 治山課長	0.5		0.5			北海道十勝農林部森林管理署長 治山課長	国有林について理解する。本別公園（治山の森）及び足寄「松川実験林（針広混交林の択伐施業）視察を含む	国有林の概要と都市近郊公園における治山事業及び択伐施業実験林などを紹介する
		国有林の森林経営	0.5				林野庁経営企画課	国有林の森林経営を理解する	日本の国有林野事業の概要	
		民有林の林業経営	0.5				竹中林業代表取締役 竹中 一元	日本の民有林における林業経営を理解する	竹中山林の経営概要を紹介する	
		林業事業体の経営	0.5		0.5		(株)北部代表取締役社長 山崎 正明	日本の林業事業体における林業経営を理解する	山崎山林の経営概要を紹介する	
	日本の森林・林業に関する制度	日本の保安林制度	0.5				林野庁治山課	日本の保安林制度の概要を理解する	日本の保安林の仕組みと内容	
		日本の森林・林業に関する法制度	0.5				(財)林政総合調査研究所 研究員 澤登 芳美	日本の森林・林業法制度の概要を理解する	森林・林業に関する法律の歴史と現状	
	森林組合制度の概要	0.5				林野庁経営課	日本の森林組合制度について理解する	森林組合の歴史、仕組み、内容		
	地方行政と森林	北海道の森林行政	0.5				道庁水産林務部総務課 林務企画G主査 常本 誠三	北海道の森林行政を理解する	北海道の森林行政概況	
帯広市の森林施業・緑化事業		0.5		0.5		帯広市都市建設部 みどりの課主事 三浦 拓	帯広市の森林・緑化への取組を理解する	帯広市の森林の概要、施業の方針		
海外における日本の森林・林業協力	JICAによる林業協力	1.0				JICA地球環境部第一グループ	JICAによる協力の方針と内容を理解する	JICAによる森林・林業協力の歴史、現状、方向		
	海外におけるNGOの取り組み	0.5				(特定)地球緑化センター 研究員 内田 邦雄	ボランティアによる海外緑化活動への取組事例を学ぶ	NPOによる中国における緑化活動への取組事例を紹介する		
	海外における住民参加型森林管理	1.0				JOFGA 二澤 安彦	海外における住民参加型森林管理の取組事例を学ぶ	海外における住民参加型森林管理の取組事例を紹介する		
	森林保全と人間活動の共生	人々と森林ー日本の土地所有制度と森林	1.0				技術士 岡部廣二	日本の森林所有制度を理解する	日本の土地所有制度と森林所有制度の歴史と現状	
		えりも緑化事業	0.5		0.5		日高南部森林管理署署長 えりも治山事務所主任	荒廃海岸の緑化「えりも岬国有林治山事業」の歴史を理解する	えりも緑化事業の施工経過と現状視察	
		住民参加による森林管理	1.0				北海道大学 農学部教授 橋次弘昭	住民参加による森林管理の意義と方法を理解する	住民参加による森林管理の意義と方法等の説明	
		森林組合の活動	1.0				豊頃町森林組合 専務理事 中井隆志	森林組合による民有林経営など森林組合活動の実態を理解する。	森林組合（工場設備、作業現場を含めて）と森林所有者との関係など	
		持続可能な森林経営の確立	0.5				JOFGA会長 小澤善照	持続可能な森林経営の理論と方法論を理解する	持続可能な森林経営の理論と方法論を講義	
		持続的な森林管理の基準指標	0.5				東京大学農学部教授 白石剛彦	持続的森林管理の基準指標を理解する	各国の森林管理の基準について	
	森林資源の把握手法と森林の効用を理解する。	日本の森林と日本人の生活ー変遷と現状ー	0.5				(財)林政総合調査研究所 参与 山田 興三	日本人の生活と森林との係わり合いを理解する	日本人の生活と森林との係わり合いの歴史と現状を説明する	
民有林における森林保全活動		0.5		0.5		前田一步園財団 林課長 西田力博	日本の民有林における財団設立による「自然を壊さない取組み」を理解する	民有林のさまざまな態様と活動（国立公園内の民有林「前田一步園の経営」）		
小学校における森林教育		0.5				元小学校教諭 柏木洋子	小学校における森林教育を紹介する	小学校における森林教育の現状説明		
参加型手法		PCM手法	2.0	2.0			JOFGA 千葉 裕起 山下 昌一	PCM手法を理解し、アクションプラン作成に活用する	PCM手法の説明と実習	
森林資源の把握	森林情報収集	0.5	0.5			(財)林野弘済会帯広支部 参与 北野 治雄	収穫調査の実態を理解する	収穫調査手法とその実態		
	森林資源把握方法（森林GISの概要）	0.5				道立林業試験場 企画指導部 資源解析科長 菅野 正人	森林資源等把握のための森林GISの概要を理解する	森林の管理・経営に必要な森林資源等の把握のための森林GIS（GISに必要なデータの取り方を含めて）についての説明		
	森林管理におけるGISの利用事例	0.5		0.5		朝日航洋株式会社	森林管理におけるGISの利用法を理解する	森林GISの基本的事項説明と森林管理における利用事例の紹介		
	森林造成技術	パイロットフォレスト・別寒辺牛川河畔林	0.5		0.5		北海道森林管理局 模範西部森林管理署 流域監理調整官	パイロットフォレストの造成について理解する	パイロットフォレストの造成の歴史、パイロットフォレストの造成に使用された機械類	
		森林修復のための技術			0.5		帯広NPO28サポートセンター 理事長 千葉 美子	森林修復のための技術を理解する。	カミネッコン（組式再生紙製植樹ポット）による植林技術について実習を含めて学ぶ	
	森林資源の持続的利用	東京大学演習林の森林経営法 東大演習林概要・林分施行法	0.5		0.5		東京大学演習林 林長 梶 幹男	森林保全と利用の調和について理解する	林分施業法の考え方と実際	
		森林施業の基礎知識	1.0				(独)森林総合研究所北海道支所 地域研究課 丸山 道	森林施業の基礎知識を習得する	森林施業の基礎知識	
		持続可能な天然林施業のための更新戦略	0.5				北海道立林業試験場 林業経営部 育林科 研究員 中川 昌彦	持続可能な天然更新の基礎知識を習得する	天然更新の基礎知識	
		高密度網を基盤とした天然林施業	0.5		0.5		北海道森林管理局（石狩森林管理署管内）	定山溪国有林における高密度網を基盤とした森林施業を理解する	北海道森林管理局石狩森林管理署定山溪国有林における高密度網を基盤とした森林施業の理解を深めるため現地視察も行う。	
		林産物の利用	0.5		0.5		道立林産試験場	林産物（北海道及び熱帯高密度材）の利用について理解する	林産試験場での研究状況の説明及び施設見学	
落葉広葉樹林施業研究		0.5				九州大学北海道演習林 林長 古賀 信也	落葉広葉樹林施業に関する取組を理解する	落葉広葉樹林の天然更新施業見学など		
木質バイオマス利用					0.5	足寄町経済課	木質バイオマス利用（ペレット）に関する製造、利用などの取組を理解する	間伐材など小径木の有効利用に向けた木質ペレットの製造過程などの視察		
椎茸ほだ木施業		0.5		0.5		新得町しいたけ生産組合 事務局長 関根 悦朗	椎茸栽培用ほだ木生産林（ミナト植栽試験林）の造成・保育等技術等の概要を理解する	しいたけモデル林で実習		
(3)森林の生物多様性保全上の役割を理解する。	森林の生態・生物多様性	育種と森林の遺伝資源	1.0				(独)森林総合研究所林木育種センター北海道育種場 育種課長 丹澤 修	遺伝資源としての森林と育種について理解する	遺伝資源としての森林及び林木育種	
		森林植生	0.5				(独)森林総合研究所北海道支所植物土壌系研究グループ長 相澤 寿平	森林植生について理解する	森林植生についての説明	
		森林動物	0.5				(独)森林総合研究所北海道支所生物多様性担当チーム長 上田 明良	森林動物について理解する	森林動物の特徴、把握方法等についての説明	
		沖縄の森林の概要・保護林の概要・西表島の国有林	1.0		1.0		九州森林管理局西表森林環境保全ふれあいセンター	日本の森林の多様性（亜熱帯林）及びマングローブ林の保全・保護について理解する	亜熱帯保護林の管理等	
	森林の生物多様性保全の種々の状況	熱帯林育種	1.0	1.0			(独)森林総合研究所林木育種センター西表熱帯育種技術園	日本での熱帯林育種への取組を理解する	熱帯育種技術園での育種活動	
		地球温暖化防止での森林の役割	0.5				林野庁海外林業協力室	地球温暖化防止上の森林の役割について理解する	地球温暖化防止上の森林の役割についての説明	
		森林と海洋	1.0				四日市大学 教授 松永勝彦	海、水産資源と森林の関係について理解する	海、水産資源と森林の関係についての説明	
		北海道の自然保護	0.5				北海道環境科学研究所 自然環境部長 宮本 雅美	北海道の自然保護を理解する	北海道の自然保護	
		湿地における野生生物保護			0.5		環境省釧路湿原野生生物保護センター（延岡産医学研究所）	湿原における野生生物の保護管理の実態を理解する	環境省釧路湿原野生生物保護センターを訪問し、湿原における絶滅危惧種の保護・増殖等に関する研究活動についての説明を受ける。	
		市民と自然とのふれあい			0.5		野模森林公園事務所 自然ふれあい交流館	北海道の原始林の面影を残した大都市近郊の平地林の保全保護と利用の調和を視察する。	北海道野模森林公園（自然ふれあい交流館）を訪問する。	
その他	コースオリエンテーション	0.5				JOFGAコースリーダー	研修コース概要説明、研修員に求められることなどを把握する	研修コース概要等に関してコースリーダーからの説明		
	学校訪問			0.5	0.5	OBIC	学校訪問で国際交流を図る	国際交流の推進		
	ジョブレポート発表会				0.5	JOFGAコースリーダー	研修員各員の森林・林業分野の現状及び担当する業務内容、問題点を研修員及び関係者が互いに理解する。	研修員が自国で抱える問題点の把握、研修員の学びたい内容の確認		
	研修前半のレビュー及び後半のオリエンテーション				0.5	JOFGAコースリーダー	研修の整理を行う	研修前半の振り返りと後半の研修内容の説明		
	アクションプラン作成検討・準備	2.0		1.0		JOFGAコースリーダー	PCM手法を活用しアクションプランを作成する	アクションプランの作成		
	アクションプラン発表会			2.0		JOFGAコースリーダー	アクションプランを通して研修成果を理解する	アクションプランの発表		
	林野庁、北海道庁、帯広市長、北海道森林管理局				1.5					
	表彰等									
			29.5	6.0	10.0	4.5	合計＝ 50.0			

平成19年度共生による森林保全コース日程表(案)

付表-3

月日	曜日	形態	項目(移動)	プログラム	講師または担当機関	宿泊
8/26	日			来日、東京→帯広		帯広
8/27	月			ブリーフィング	JICA・北方圏センター	〃
8/28	火			オリエンテーション	〃	〃
8/29	水			オリエンテーション	〃	〃
8/30	木			日本語研修	〃	〃
8/31	金			日本語研修	〃	〃
9/1	土			休日		〃
9/2	日			休日		〃
9/3	月		(OBIC←→市役所) 午前	市長表敬(09:15～09:45) コースオリエンテーション(10:30～11:30)	市民活動部親善交流課長 酒井 孝幸 JICA/JOFCA二澤 安彦	〃
			午後	ジョブレポート発表会(13:30～16:30) ティーパーティー(16:45～)	JOFCA 二澤 安彦	
9/4	火	講義	日本の森林・林業の概要	日本の森林・林業(10:00～16:00)	JOFCA 出口 智行	〃
9/5	水	講義	日本の森林・林業の概要	日本の造林・治山事業(10:00～16:00)	JOFCA 出口 智行	〃
9/6	木	講義 視察	(OBIC←→現地) 地方行政と森林	帯広市の森林施業・緑化事業 (10:00～12:00:OBIC講義/13:30～15:30:視察)	帯広市都市建設部 みどりの課主事 三浦 拓	〃
9/7	金	講義	森林保全と人間活動の共生	人々と森林ー日本の土地所有制度と森林 (10:00～16:00)	技術士 岡部 廣二	〃
9/8	土			休日		〃
9/9	日			休日		〃
9/10	月	講義 実習	参加型手法	PCM手法(10:00～16:00)	JOFCA 千葉 裕起/山下 昌一	〃
9/11	火	講義 実習	参加型手法	PCM手法(10:00～16:00)	JOFCA 千葉 裕起/山下 昌一	〃
9/12	水	講義 実習	参加型手法	PCM手法(10:00～16:00)	JOFCA 千葉 裕起/山下 昌一	〃
9/13	木	講義 実習	参加型手法	PCM手法(10:00～16:00)	JOFCA 千葉 裕起/山下 昌一	〃
9/14	金	講義	森林の生物多様性保全の種々の 状況	森林と海洋(10:00～16:00)	四日市大学環境情報学部 教授 松永 勝彦	〃
9/15	土			休日		〃
9/16	日			休日		〃
9/17	月	移動	(帯広→えりも)			えりも
9/18	火	視察	(えりも→帯広) 森林保全と人間活動の共生	えりも緑化事業(10:00～12:00)	日高南部森林管理署 署長 毛利 利昭 えりも治山事業所主任 柳生 誠	帯広
9/19	水	実習	(帯広←→糠平) 森林資源の把握	森林情報収集(10:30～15:00)	林野弘済会帯広支部 参与 北野 治義	〃
9/20	木	講義 視察	(帯広→本別→足寄→阿寒) 日本の森林・林業の概要	国有林の森林経営(10:30～14:30)	十勝東部森林管理署 署長 山田 孝信 治山課長 神山 真吾	阿寒
9/21	金	講義 視察	(阿寒→前田→歩園→釧路) 森林保全と人間活動の共生	民有林における森林保全活動(10:00～15:00)	前田→歩園財団 山林課長 西田 力博	釧路
9/22	土	講義 視察	(釧路←→北斗) 森林の生物多様性保全の種々の 状況	湿地における野生生物保護(10:00～12:00)	釧路湿原野生生物保護センター 猛禽類医学研究所 代表 斉藤 慶輔	〃
9/23	日			休日		〃
9/24	月			休日		〃
9/25	火	講義 視察	(釧路←→標茶) 森林造成技術	パイロットフォレスト・別寒辺牛川河畔林(10:00～15:30)	根釧西部森林管理署 署長 吉田 朋泰 流域管理調整官 國井 進	〃
9/26	水	講義 視察	(釧路→山崎山林→帯広) 日本の森林・林業の概要	林業事業体の経営(10:00～15:30)	株式会社 北都 代表取締役社長 山崎 正明	帯広
9/27	木	講義	海外における日本の森林・林業協力	海外における住民参加型森林管理(10:00～16:00)	JOFCA 二澤 安彦	〃
9/28	金	討論	その他	アクションプラン作成検討・準備(10:00～16:00)	JOFCA 二澤 安彦	〃
9/29	土			休日		〃

平成19年度共生による森林保全コース日程表(案)

付表-3

月日	曜日	形態	項目(移動)	プログラム	講師または担当機関	宿泊
9/30	日			休日		〃
10/1	月	移動 講義 視察	(帯広→富良野→札幌) 森林資源の持続的利用	東京大学演習林の森林経営法 東大演習林概要・林分施業法 (11:00～15:00)	東京大学演習林 林長 梶 幹夫	札幌
10/2	火	表敬 講義		北海道森林管理局表敬訪問/講義:北海道の国有林概要 (9:30～11:00)	北海道森林管理局企画調整部 企画課長補佐 相沢 伴軌	〃
		表敬		北海道庁表敬訪問 (11:30～12:00)	北海道水産林務部企画調整課 主査(国際交流) 鏡 法裕/林務局長予定	
10/3	水	講義 視察	(札幌→森林管理局→定山溪→札幌) 森林資源の持続的利用	高密度網を基盤とした天然林施業(定山溪) (10:00～15:30)	北海道森林管理局企画調整部企画課長 西 真 総務企画係長 井上 俊一	〃
10/4	木	講義	(札幌→美唄) 午前:森林資源の持続的利用	持続可能な天然林施業のための更新戦略 (10:30～12:00)	北海道立林業試験場 場長 高藤 満 林業経営部育林科 研究職員 中川 昌彦	〃
		講義	午後:森林資源の把握 (札幌→美唄)	森林資源把握方法 (森林GISの概要-GISに必要なデータの取り方を含めて) (13:00～15:00)	道立林業試験場 企画指導部 資源解析科長 菅野 正人	
10/5	金	講義	午前:地方行政と森林	北海道の森林行政 (10:00～12:00) (講義場所:ホテルサッポロメッツ)	北海道水産林務部 林務企画グループ主査 常本 誠三	〃
		講義	午後:森林の生物多様性保全の 種々の状況	北海道の自然保護 (13:30～15:30) (講義場所:ホテルサッポロメッツ)	北海道環境科学研究センター 自然環境部長 宮木 雅美	
10/6	土	講義 視察	(札幌→厚別町小野幌) 森林の生物多様性保全の種々の 状況	市民と自然とのふれあい(自然ふれあい交流館) 午前視察(10:00～12:00)	自然ふれあい交流館 副館長 山田 建 普及啓発員 濱本 真琴	〃
10/7	日			休日		〃
10/8	月			休日		〃
10/9	火	講義 視察	(札幌→江別) 森林の生態・生物多様性	育種と森林の遺伝資源 (10:30～15:30)	独立行政法人森林総合研究所 林木育種セ ンター北海道育種場 育種課長 丹藤 修	〃
10/10	水	講義 視察	森林資源の持続的利用	森林施業の基礎知識(10:30～15:30) (場所:森林総合研究所/午前:講義・午後:視察)	独立行政法人森林総合研究所北海道支所 地域研究監 丸山 温	〃
10/11	木	講義	午前:森林の生態・生物多様性	森林植生 (13:30～12:00) (講義場所:ホテルサッポロメッツ)	独立行政法人森林総合研究所北海道支所 植物土壌系研究グループ長 相澤 州平	〃
		講義	午後:森林の生態・生物多様性	森林動物(13:30～15:30) (講義場所:ホテルサッポロメッツ)	独立行政法人森林総合研究所北海道支所 生物多様性担当チーム長 上田 明良	
10/12	金	表敬 講義	(札幌→旭川) 森林資源の持続的利用	北海道林産試験場 場長表敬(11:00～11:10) 天然林林産物の利用(北海道における林産物の利用状況) (11:10～12:15)	道立林産試験場場長 浅井 定美 企画指導部 経営科長 加藤 幸浩	〃
		講義 視察	森林資源の持続的利用 (札幌→旭川)	日本における南洋材の用途 (13:15～14:15) 林産試験場の概要・施設案内 (14:15～15:30)	利用部 材質科長 佐藤 真由美 企画指導部 主任研究員 真田康弘	
10/13	土	移動	(札幌→帯広)	休日		帯広
10/14	日			休日		〃
10/15	月	講義 視察	(帯広→池田町) 午前:日本の森林・林業の概要	民有林の林業経営 (10:00～13:00)	竹中林業 代表取締役 竹中一元	〃
		討論	(池田町→帯広) 研修前半の総括	研修前半レビュー及び後半のオリエンテーション (14:30～16:30)	JOFCA 二澤 安彦	
10/16	火	講義 視察	(帯広→足寄) 午前:森林資源の持続的利用	落葉広葉樹林施業研究(11:00～14:00)	九州大学北海道演習林 林長 古賀 信也 春口 道憲 /猪又さん	〃
		視察	午後:森林資源の持続的利用 (足寄→芽室→帯広)	木質バイオマスエネルギー利用(ペレットの製造及び利用) (14:30～16:00)	足寄町長 阿久津 勝彦 経済課 商工観光振興室 岩原	
10/17	水	講義	森林保全と人間活動の共生	住民参加による森林管理(10:00～16:00)	北海道大学農学部 教授 柿沢 宏昭	〃
10/18	木	講義 視察	(帯広→豊頃) 森林保全と人間活動の共生	森林組合の活動 (10:00～15:00)	豊頃町森林組合 専務理事 中井 隆志	〃
10/19	金	視察	学校訪問	国際交流の推進		〃
10/20	土			休日		〃
10/21	日			休日		〃
10/22	月	講義	海外における 日本の森林・林業協力	JICAによる林業協力 (10:00～16:00)	JICA地球環境部第一グループ	〃
10/23	火	講義	森林保全と人間活動の共生	小学校における森林教育(10:00～12:00)	元小学校教諭 柏本洋子	〃
		講義 実習	(OBIC→現地) 森林造成技術	森林修復のための技術(カミネットコンによる森林造成) (13:00～14:30:OBIC講義/14:30～16:00:現地実習)	帯広NPOサポートセンター 理事長 千葉 養子	〃
10/24	水	視察	(帯広→新得) 森林資源の持続的利用	椎茸ほだ木施業・椎茸出荷センター (10:00～13:30)	新得町しいたけ生産組合組合 事務局長 関根 悦朗	〃

平成19年度共生による森林保全コース日程表(案)

付表-3

月日	曜日	形態	項目(移動)	プログラム	講師または担当機関	宿泊
10/25	木	移動	(常広→東京)			東京
10/26	金	表敬 講義	午前:日本の森林・林業の概要	林野庁表敬訪問(10:00~10:10) 講義:国有林の森林経営(10:30~12:00)	林野庁計画課海外林業協力室長 清水邦夫 海外林業協力室 研修係長 岡林正人 経営企画課 企画官 本郷浩二	〃
		講義	午後:日本の森林・林業に関する制度	日本の保安林制度(13:30~15:30)	林野庁治山課課長補佐(企画班担当) 橋 政行	
10/27	土			休日		〃
10/28	日			休日		〃
10/29	月	講義	森林の生物多様性保全の種々の状況	地球温暖化防止での森林の役割(林友ビル6F会議室) (10:30~12:00)	林野庁計画課海外林業協力室 課長補佐(海外技術担当) 赤堀 聡之	〃
		講義	日本の森林・林業に関する制度	森林組合制度の概要(林友ビル6F会議室) (13:30~15:30)	林野庁経営課 課長補佐(組合組織班担当) 岩下 秀美	
10/30	火	講義 実習	(東京←→西武新宿線南大塚) 森林資源の把握	森林管理におけるGISの利用事例 (11:00~15:00)	朝日航洋	〃
10/31	水	講義	海外における日本の森林・林業協力	海外におけるNGOの取組み(中国における砂漠緑化活動)(林友ビル6F会議室)(10:30~12:00)	(特定)地球緑化センター 研究員 内田 邦雄	〃
		講義	森林保全と人間活動の共生	日本の森林と日本人の生活・変遷と現状 (林友ビル6F会議室)(13:00~15:00)	(財)林政総合調査研究所参与 山垣 興三	
11/1	木	講義	森林保全と人間活動の共生	持続的な森林管理の基準指標(林友ビル6F会議室) (10:30~16:00)	東京大学農学部 教授 白石 則彦	〃
11/2	金	講義	午前:日本の森林・林業に関する制度	日本の森林・林業に関する法制度(林友ビル6F会議室) (10:30~12:00)	(財)林政総合調査研究所研究員 澤登 芳英	〃
		講義	午後:森林保全と人間活動の共生	持続可能な森林経営の確立(モデルフォレスト他) (林友ビル6F会議室)(14:00~17:00)	JOFCA 会長 小澤 普照	
		交流	夕刻~	研修員&講師・JOFCA交流会 (林友ビル6F会議室)(17:30~19:00)	交流・意見交換会・林友ビル会議室	
11/3	土	移動	(東京→石垣島)			石垣島
11/4	日			休日		〃
11/5	月	講義 視察	(HOTEL←→石垣地方合同庁舎) 森林の生態・生物多様性	沖縄の森林の概要・保護林の概要 西表島の国有林(13:30~16:30) (場所:石垣地方合同庁舎)	九州森林管理局 西表森林環境保全ふれあいセンター所長 上席自然再生指導官 杉野 恵宣 自然再生指導官 瀬高 孝男	〃
11/6	火	講義 視察	(石垣島←→西表島) 森林の生態・生物多様性	マングローブ林の保全・保護 (場所:西表島)(10:00~15:00)	〃	〃
11/7	水	講義 実習	(石垣島←→西表島) 森林の生態・生物多様性	10:30~12:00: 講義 熱帯林育種 13:00~15:00: クローン増殖技術実習	林木育種センター西表熱帯育種技術園 園長 山形 克明他	〃
11/8	木	講義 実習 視察	(石垣島←→西表島) 森林の生態・生物多様性	10:30~12:00: 講義:熱帯林育種技術実習 13:00~15:00: 樹木園等施設内視察	〃	〃
11/9	金	移動	(石垣島→帯広)			帯広
11/10	土			休日(アクションプラン作成)		〃
11/11	日			休日(アクションプラン作成)		〃
11/12	月	討論	アクションプラン	アクションプラン作成		〃
11/13	火	討論	アクションプラン	コースリーダーによるアクションプランに関する指導 アクションプラン発表リハーサル・討論	JOFCA 二澤 安彦	〃
11/14	水	討論	アクションプラン	アクションプラン発表リハーサル・討論 評価会	JOFCA 二澤 安彦/出口 智行	〃
11/15	木	その他	アクションプラン	アクションプラン発表会・閉講式	JOFCA 二澤 安彦/出口 智行 JICA	〃
11/16	金			帰国		〃

年度別受入実績表

1. 応募／受入 人数

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	累計
応募数	16名	18名	16名	50名
	男性13名 女性3名	男性13名 女性5名	男性12名 女性4名	男性38名 女性12名
受入数	12名	11名	11名	34名
	男性9名 女性3名	男性8名 女性3名	男性8名 女性3名	男性25名 女性9名

2. 研修員の出身国

○男性 ●女性

国 名	17年度	18年度	19年度	累計
(アジア全域)				
カンボディア	○		○	2名
中華人民共和国			●	1名
タイ	○●			2名
フィリピン	●			1名
ミ ャ ン マ ー	○	○	○	3名
ラオス		○		1名
ベトナム		○	○	2名
キルギス共和国			○	1名
(アフリカ地域)				
レソト			○	1名
ニジェール			○	1名
エチオピア	○			1名
トーゴ	○			1名
ガーナ		●		1名
ケニア		○		1名
ウガンダ		●		1名
ザンビア		●		1名
(中南米地域)				
ドミニカ共和国	○	○		2名
ニカラグア	○			1名
アルゼンチン			●	1名
ブラジル			●	1名
グアテマラ			○	1名
メキシコ		○		1名
(中東地域)				
チュニジア	●			1名
(太平洋州)				
ソロモン	○○			2名
パプアニューギニア		○		1名
フィジー			○	1名
サモア		○		1名
計	10ヶ国 12名	11ヶ国 11名	11ヶ国 11名	27ヶ国 34名